書　評

海津正倫著『沖積低地―土地条件と自然災害リスク』古今書院　2019年　158ページ　4,000円＋税　ISBN：978-4-7722-5328-4

羽佐田　紘　大*

本書は、多くの人々が生活し、これまでさまざまな自然災害が発生してきた沖積低地について、多くの写真や地形図、主題図を交えながら、土地の特性や自然災害に対する脆弱性をわかりやすく解説した書籍である。

著者の海津正倫先生（奈良大学特命教授、名古屋大学名誉教授）は、日本を代表する自然地理学・地形学・第四紀学の研究者、日本における沖積低地研究の第一人者として知られ、沖積低地の形成史、デルタの地形環境や自然災害などに関する論文や著書を多数執筆している。中でも、国内外の沖積低地の研究史や発達過程をまとめた名著『沖積低地の古環境学』（海津, 1994）は、地形学や第四紀学を専門に学ぼうとする学生にとっての必読書となっている。また、2012年に刊行された『沖積低地の地形環境学』（海津編, 2012）は、沖積低地の成り立ちとともに具体的な研究事例を紹介しており、高等学校の教科書と専門用語が並ぶ専門書とを繋ぐ、学生・実務者向けテキストとしての役割を果たしている。

本書は、上記２冊とは異なり、地形学や第四紀学を専門としない読者を意識するとともに、自然災害に重きを置いた内容となっている。本書の構成は以下の通りである。

まえがき
Ⅰ　過去の地図や空中写真からわかる沖積低地の変化
　Ⅰ－１　多摩川低地の旧河道／Ⅰ－２　大きく変化した久慈川河口付近の地形と土地利用／Ⅰ－３　過去の沖積低地を知る手掛かり
Ⅱ　沖積低地を理解する
　Ⅱ－１　沖積平野・海岸平野・谷底平野などからなる沖積低地／Ⅱ－２　沖積低地はどのような所か／Ⅱ－３　沖積低地の形成される場／Ⅱ－４　沖積低地はどのように形成されてきたか
Ⅲ　沖積低地の地形を知る
　Ⅲ－１　沖積平野と海岸平野／Ⅲ－２　沖積平野／Ⅲ－３　谷底平野／Ⅲ－４　三角州／Ⅲ－５　海岸平野
Ⅳ　沖積低地の自然災害リスク
　Ⅳ－１　沖積低地の土地条件と自然災害リスク／Ⅳ－２　扇状地の土地条件と自然災害リスク／Ⅳ－３　氾濫原の土地条件と自然災害リスク／Ⅳ－４　谷底平野の土地条件と自然災害リスク／Ⅳ－５　三角州・海岸平野の土地条件と自然災害リスク
Ⅴ　地形の把握と地形分類図
　Ⅴ－１　地形をどのようにとらえるか／Ⅴ－２　地形分類図の普及と展開／Ⅴ－３　地形分類図の作成はどのようにおこなわれるか／Ⅴ－４　地形をどのように区分するか／Ⅴ－５　地形分類の課題／Ⅴ－６　地形分類図とハザードマップ
あとがき
文献
索引

Ⅰ章では、著者の経験を踏まえながら、身近な地形やその変化の見方について述べている。著者の子ども時代の記憶を辿るところから始まり、過去の地形や土地利用を知る際の旧版地形図や空中写真の有用性を初学者にもわかりやすく示している。さらに、過去および現在の沖積低地を知る手掛かりとなる情報源として、地形

*法政大学文学部地理学科

図や空中写真のほか、衛星画像や複数のWebサイトの紹介もなされている。

Ⅱ章は、沖積低地の成り立ちに関する基本的な事柄について概説している。沖積低地という言葉の定義を押さえた上で、沖積低地の土地利用状況や沖積低地の形成と地殻変動・環境変動との関係を説明している。特に３節や４節については、関東平野が例に挙げられており、『東京の自然史』（貝塚，2011）などと合わせて読むとより理解が深まるであろう。

Ⅲ章は、沖積低地に分布する地形ごとの特徴について解説している。地形の形態を説明するのみならず、地形を示す用語の混乱（例えば、氾濫原と氾濫平野）についても言及している。本書は高等学校の教科書の用語を基本としており、地理教育への配慮がなされていることがわかる。

Ⅳ章では、事例を挙げながら、沖積低地の地形ごとの自然災害に対する脆弱性を説明している。１節で沖積低地全体を概説した後の節は、扇状地、氾濫原、谷底平野、三角州・海岸平野と上流側から順になるように配置されているが、順番通りではなく興味ある節から読み進めてもよいであろう。

Ⅴ章では、地形分類図がどのような経緯で作成され、今日に至ったかについて紹介している。地形分類図の作成史が丁寧にまとめられている点が特長である。さらに、地形分類図やハザードマップの課題にも言及しており、読了後はこれらの地図の見え方が変わってくるはずである。

本書は、地形学や第四紀学を専門とする方のみならず、それらを専門としない実務者や地域防災にかかわる方も対象とし、著者自身が撮影した写真や新旧地形図、地形分類図、陰影図などを活用することで、読者が理解しやすくなるよう工夫されている。さらに、本書が2022年度から必修化される高等学校の地理総合の参考資料になり得ることを想定し、読者の精神的ショックを避け、災害現場についての生々しいクローズアップ写真を載せないといった配慮もなされている。こういった点は、著者の地理教育への意識がいかに高いかを強く感じさせるものである。本書との出会いは、今後の地理教育や防災教育について改めて考えるきっかけになるであろう。本書は、沖積低地に関する事柄をわかりやすくまとめた好著、まさに沖積低地の教科書である。専門であるかどうかに限らず、ぜひ多くの方々に手にとってもらいたい。

なお、写真のほか、原図はカラー図版と思われるものが白黒印刷され、判読困難なものがいくつかみられた。次版での改善や写真・図のWeb公開を期待したい。写真や図がカラーで提供されれば、高等学校や大学の授業教材として活用しやすくなるに違いない。

《文献》

海津正倫（1994）『沖積低地の古環境学』古今書院，270p

海津正倫編（2012）『沖積低地の地形環境学』古今書院，188p

貝塚爽平（2011）『東京の自然史』講談社，336p